

生産記録(秋耕の取組)

記入例

農業者団体の名称	環境保全型農業推進協議会
農業者名 氏名又は法人名	かしわざき だろう 柏崎 太郎

ほ場番号	作物名(5割低減)	備考
1~10	水稲 (コシヒカリ)	

生産記録番号
1 - 4

1 秋耕

作業名	実施時期	備考
秋耕	10月10日	

作業実施時期に幅がある場合は、  
〇月〇日～〇月〇日と記入してください。

水稲の場合は品種名も記入してください。

「(何枚目)/(総枚数)」と  
記入してください。

2 栽培管理(5割低減の取組)

注)同一作物で複数ほ場において取組があり、栽培管理の内容が同じ場合 →  栽培管理が生産記録番号に記載した内容と同じ

(1)作業工程

作業名	実施時期(月日)
播種	4月20日
定植	5月20日
収穫終了日	9月15日

作業実施時期に幅がある場合は、  
〇月〇日～〇月〇日と記入してください。

小数点以下第3位まで記載する。  
小数点以下第4位までは切り上げ

培土で窒素成分割合を「%」ではなく「〇g/箱」と書いている場合、1箱当たりの育苗培土の使用量を備考欄に記入してください。  
【例1】ホーネンス培土1号は窒素割合が1.3g/2.8kg(=0.04643%。この%数値は切り上げずにそのまま計算)であることから、使用量が2.8kg/箱でない場合、窒素割合1.3g/箱とは書けない。  
【例2】セルシオ1号は窒素割合が0.05%。

(2)肥料等

【使用肥料】

資材等の名称	化学肥料窒素成分の割合(%)	使用時期(月日)	使用量(kg/10a)	うち化学肥料窒素成分量(kgN/10a)(A)	慣行の5割低減の水準(kgN/10a)(B)	備考
稲わら秋すき込み	0.00%	9月25日	全量	0.000		
ホーネンス培土1号	1.3g/箱	4月20日	18箱	0.024	2.8kg/箱	
べんとう肥	8.00%	5月10日	0.3	0.024		
ケイカル	0.00%	4月20日	120	0.000		
エコ・5-5専用元肥	4.80%	5月10日	30	1.440		
エコ・5-5専用巻肥	7.50%	7月15日	10	0.750		
味好2号	0.00%	7月25日	10	0.000		
				2.238	3.0	

柏崎地域は  
【水稲】  
わたぼうし  
こしいぶき  
越路早生  
ひとめぼれ  
} 3.5  
上記以外 3.0

全ての資材について、チラシ・カタログ通りの名称を記載ください。化学窒素の成分量がわかるパンフレット(堆肥等の自給資材は申し立て書)等を提出ください(JAの取扱資材は、原則不要)

(注1) 化学肥料窒素成分を含まない肥料や稲わら秋すき込みも含めて記入する。  
(注2) (A)の合計 ≤ (B)の値 となっているか確認すること。

【使用農薬】

農薬名(剤型等、商品名)	使用時期(月日)	化学合成農薬成分回数(C)	慣行の5割低減の水準(成分回数)(D)	備考
温湯種子消毒	3月15日	0		
タフブロック	4月10日	0		
フェルテラ箱粒剤	4月20日	1		
ソルネット1キロ粒剤	5月1日	1		
月光ジャンボ	5月14日	3		
バサグラン粒剤	2月18日	1		
スタークル液剤10	7月29日	1		
合計		7	8	

化学合成農薬成分回数が「0」のものについても記載してください。

一部の資材がほ場で異なる場合、備考にその旨記載ください。

ほ場No3のみ

柏崎地域は、【水稲】8

登録内容に合致した使用時期であることがわかるように記載してください。(特に、初期除草剤や後期除草剤の移植後日数や収穫前日数の使用制限)

(注1) フェロモン剤、生物農薬等カウントしない農薬も含めて記入する。  
(注2) (C)の合計 ≤ (D)の値 となっているか確認すること。

3 農業者団体への提出・保管する書類

出荷・販売伝票(10アール未満の取組の場合)

(注) 農業者団体に提出(原本は農業者保管)する書類名の口、 または  を入れる。